



2020年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

2020年1月30日

上場会社名 インフォコム株式会社 上場取引所 東
 コード番号 4348 URL <https://www.infocom.co.jp/>
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 竹原 教博
 問合せ先責任者 (役職名) 広報・IR室長 (氏名) 田中 新也 TEL 03-6866-3160
 四半期報告書提出予定日 2020年2月7日 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無：有 2020年3月期第3四半期決算補足説明資料
 四半期決算説明会開催の有無：無

(百万円未満切捨て)

1. 2020年3月期第3四半期の連結業績（2019年4月1日～2019年12月31日）

(1) 連結経営成績（累計）

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2020年3月期第3四半期	41,200	16.0	5,827	53.2	5,842	51.8	3,976	46.4
2019年3月期第3四半期	35,509	13.0	3,804	11.8	3,849	4.0	2,715	△19.0

(注) 包括利益 2020年3月期第3四半期 3,828百万円 (23.8%) 2019年3月期第3四半期 3,092百万円 (△20.7%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2020年3月期第3四半期	72.68	72.35
2019年3月期第3四半期	49.65	49.43

(注) 当社は、2019年3月1日付で普通株式1株につき2株の割合で株式分割を行っています。前連結会計年度の期首に当該株式分割が行われたと仮定して、「1株当たり四半期純利益」及び「潜在株式調整後1株当たり四半期純利益」を算定しています。

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2020年3月期第3四半期	44,511	35,315	78.5
2019年3月期	43,649	32,707	74.6

(参考) 自己資本 2020年3月期第3四半期 34,933百万円 2019年3月期 32,547百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2019年3月期	—	10.00	—	17.00	—
2020年3月期	—	10.00	—	—	—
2020年3月期（予想）	—	—	—	21.00	31.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無：有

配当予想の修正については、本日（2020年1月30日）公表しました「配当予想の修正に関するお知らせ」をご覧ください。

当社は、2019年3月1日付で普通株式1株につき2株の割合で株式分割を行っています。2019年3月期の1株当たり期末配当金については、当該株式分割の影響を考慮した金額を記載し、年間配当金合計は「—」として記載しています。株式分割後の基準で換算した2019年3月期の1株当たり年間配当金は22円となります。

3. 2020年3月期の連結業績予想（2019年4月1日～2020年3月31日）

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	58,500	13.1	8,200	19.0	8,200	19.3	5,500	15.0	100.53

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無：無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）：無
新規 一社（社名）一、除外 一社（社名）一

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2020年3月期3Q	57,600,000株	2019年3月期	57,600,000株
② 期末自己株式数	2020年3月期3Q	2,882,023株	2019年3月期	2,903,142株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	2020年3月期3Q	54,711,667株	2019年3月期3Q	54,696,903株

（注）当社は、2019年3月1日付で普通株式1株につき2株の割合で株式分割を行っています。前連結会計年度の期首に当該株式分割が行われたと仮定して、「期中平均株式数」を算定しています。

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です。

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

（将来に関する記述等についてのご注意）

業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。なお、業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料3ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報（3）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

（四半期決算補足説明資料の入手方法について）

当四半期決算補足説明資料は、TDnetで同日開示するとともに、当社ホームページに掲載します。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	5
四半期連結損益計算書	
第3四半期連結累計期間	5
四半期連結包括利益計算書	
第3四半期連結累計期間	6
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	7
(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(セグメント情報等)	8

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間における日本経済は、企業及び消費活動が消費税増税の影響を受けました。また、世界的な貿易摩擦の影響が懸念され、依然として不透明な状況が継続しています。

IT関連市場では、スマートフォンやタブレット等のモバイル端末によるクラウドサービスの利用が加速し、AIやIoTのビジネスへの適用拡大、「働き方改革」の実現に向けたRPAの本格活用等により、IT需要全体が好調に推移すると見られています。

電子書籍市場は、スマートフォンによる電子書籍の利用が普及しユーザのすそ野が広がっており、成長基調が継続しています。

このような経営環境において、当社グループは中期経営計画（2017年4月～2020年3月）の基本方針である「成長の追求」と「成長を支える経営基盤の継続的強化」の下、電子コミックとヘルスケアを重点事業として、M&Aの積極的推進に加え、AIやIoTを活用したビジネス展開等に取り組んでいます。

これらの結果、当第3四半期連結累計期間における当社グループの経営成績は、売上高41,200百万円（前年同四半期比16.0%増）、営業利益5,827百万円（同53.2%増）、経常利益5,842百万円（同51.8%増）、親会社株主に帰属する四半期純利益3,976百万円（同46.4%増）となりました。

セグメント別の業績は次のとおりです。

① ITサービス・セグメント

当第3四半期連結累計期間のITサービス・セグメントは、病院向けの好調に加え企業向けの前倒しもあり、売上高は17,034百万円（前年同四半期比9.4%増）、営業利益は1,887百万円（同253.3%増）となりました。

ヘルスケア事業は、働き方改革への対応に伴い病院における複雑な勤務状況の管理に有効な就業管理システムの販売が拡大しました。また、手術部門システムにおいて災害発生時の情報共有を実現するダッシュボード機能を展示会で発表しました。加えて、病院向け事業のアジア展開等を視野にヘルスケア領域に特化したベンチャーキャピタルと契約しました。

地域包括ケア領域では、介護職向け転職支援サービス「ケアスタイル」のマッチング精度向上等を図るため人材紹介事業を展開する㈱スタッフプラスを連結子会社化しました。

企業向けでは、文書管理システム「MyQuick」において電子契約サービスとの連携やAIによる自動入力に対応し契約書管理業務の効率化を図りました。また、統合業務ソフトウェアパッケージ「GRANDIT」にクラウド基盤※を組み合わせたサービスの提供を開始しました。

※クラウド基盤…仮想化技術を用いたITインフラ提供サービス（Microsoft Azure, Amazon Web Services等）

② ネットビジネス・セグメント

当第3四半期連結累計期間のネットビジネス・セグメントは、電子コミック配信サービスが好調に推移し、売上高は24,165百万円（前年同四半期比21.2%増）、営業利益は3,933百万円（同20.6%増）となりました。

同サービスの広告強化の施策として、テレビコマーシャル放映期間の拡大や東京ヤクルトスワローズの冠スポンサー試合「めっちゃコミックDAY」の実施、加えて「めっちゃコミック」の人気作品をリアル書店の売り場で紹介する「めっちゃ本屋」を5月と11月に実施しました。

また、ユーザ拡大の施策として、若年層をターゲットとした「めっちゃコミック」のアプリ版の提供を開始した他、Web版の機能をリニューアルし「毎日無料連載」を開始しました。

海外展開では、韓国の電子コミック事業者である㈱ピーナトゥーンの連結子会社化に加え、㈱アムタスと㈱パピレスの共同出資による海外事業を目的とした会社を設立しました。

(2) 財政状態に関する説明

①連結財政状態

総資産は、売上債権が減少する一方、現金及び預金の増加等により前連結会計年度末と比較して862百万円増加し、44,511百万円となりました。負債は、賞与引当金及び未払法人税等の減少等により、前連結会計年度末と比較して1,745百万円減少し、9,196百万円となりました。また、純資産は、前連結会計年度末と比較して2,607百万円増加し、35,315百万円となりました。

以上の結果、自己資本比率は、前連結会計年度末の74.6%から78.5%に上昇しました。

②連結キャッシュ・フロー

当第3四半期連結累計期間末における現金及び現金同等物（以下「資金」という）は22,411百万円となり、前連結会計年度末より2,234百万円増加しました。各キャッシュ・フローの状況とそれらの主たる増減要因は以下のとおりです。

[営業活動によるキャッシュ・フロー]

営業活動によって得られた資金は5,953百万円（前年同四半期は3,277百万円）となりました。これは主に税金等調整前四半期純利益5,762百万円（同3,958百万円）及び売上債権の減少3,192百万円（同2,100百万円）等により増加し、仕入債務の減少474百万円（前年同四半期は370百万円の増加）及び法人税等の支払2,649百万円（同2,302百万円）等により減少したものです。

[投資活動によるキャッシュ・フロー]

投資活動に使用した資金は2,141百万円（前年同四半期は852百万円）となりました。これは主に連結の範囲の変更を伴う子会社株式の取得による支出1,092百万円（前年同四半期はなし）及び無形固定資産の取得による支出527百万円（同438百万円）等によるものです。

[財務活動によるキャッシュ・フロー]

財務活動に使用した資金は1,528百万円（前年同四半期は1,086百万円）となりました。これは主に配当金の支払1,477百万円（同1,039百万円）によるものです。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

本資料の発表日現在において、2019年10月30日の「業績予想の修正に関するお知らせ」で公表した通期の連結業績予想に変更はありません。

なお、上記業績予想は、本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づくため、実際の業績は今後様々な要因によって予想数値と異なる結果となる場合があります。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2019年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2019年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	20,173	22,407
受取手形及び売掛金	10,576	7,432
たな卸資産	558	939
その他	1,142	1,413
貸倒引当金	△4	△4
流動資産合計	32,445	32,187
固定資産		
有形固定資産	892	900
無形固定資産		
ソフトウェア	1,700	1,671
のれん	—	1,224
その他	38	36
無形固定資産合計	1,738	2,933
投資その他の資産		
投資その他の資産	8,697	8,617
貸倒引当金	△124	△127
投資その他の資産合計	8,573	8,490
固定資産合計	11,204	12,323
資産合計	43,649	44,511
負債の部		
流動負債		
買掛金	4,159	3,683
未払法人税等	1,472	371
賞与引当金	1,222	493
その他の引当金	170	17
その他	3,620	4,123
流動負債合計	10,645	8,688
固定負債		
退職給付に係る負債	—	7
その他	296	501
固定負債合計	296	508
負債合計	10,941	9,196
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,590	1,590
資本剰余金	1,447	1,452
利益剰余金	28,833	31,333
自己株式	△816	△810
株主資本合計	31,054	33,564
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	1,549	1,520
繰延ヘッジ損益	1	0
為替換算調整勘定	△58	△151
その他の包括利益累計額合計	1,492	1,369
新株予約権	157	186
非支配株主持分	2	194
純資産合計	32,707	35,315
負債純資産合計	43,649	44,511

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

(四半期連結損益計算書)

(第3四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年12月31日)
売上高	35,509	41,200
売上原価	18,813	21,059
売上総利益	16,695	20,140
販売費及び一般管理費	12,891	14,312
営業利益	3,804	5,827
営業外収益		
受取利息及び配当金	82	72
持分法による投資利益	5	1
その他	0	3
営業外収益合計	89	77
営業外費用		
支払利息	1	1
為替差損	0	2
パートナーシップ損失	41	58
その他	0	0
営業外費用合計	43	62
経常利益	3,849	5,842
特別利益		
投資有価証券売却益	114	2
特別利益合計	114	2
特別損失		
固定資産除却損	1	2
関係会社株式評価損	—	20
貸倒引当金繰入額	—	56
その他	3	2
特別損失合計	4	82
税金等調整前四半期純利益	3,958	5,762
法人税等	1,236	1,796
四半期純利益	2,722	3,966
非支配株主に帰属する四半期純利益又は非支配株主に帰属する四半期純損失(△)	7	△10
親会社株主に帰属する四半期純利益	2,715	3,976

(四半期連結包括利益計算書)
 (第3四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年12月31日)
四半期純利益	2,722	3,966
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	345	△28
繰延ヘッジ損益	△0	△1
為替換算調整勘定	23	△107
その他の包括利益合計	369	△137
四半期包括利益	3,092	3,828
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	3,085	3,852
非支配株主に係る四半期包括利益	7	△24

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年12月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	3,958	5,762
減価償却費	816	771
株式報酬費用	29	40
のれん償却額	—	102
引当金の増減額 (△は減少)	△655	△839
受取利息及び受取配当金	△82	△72
支払利息	1	1
投資有価証券売却損益 (△は益)	△114	△2
関係会社株式評価損	—	20
売上債権の増減額 (△は増加)	2,100	3,192
たな卸資産の増減額 (△は増加)	△908	△381
仕入債務の増減額 (△は減少)	370	△474
その他	△22	409
小計	5,493	8,531
利息及び配当金の受取額	87	72
利息の支払額	△1	△1
法人税等の支払額	△2,302	△2,649
営業活動によるキャッシュ・フロー	3,277	5,953
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	△209	△205
無形固定資産の取得による支出	△438	△527
投資有価証券の取得による支出	△467	△252
投資有価証券の売却による収入	235	5
連結の範囲の変更を伴う子会社株式の取得による支出	—	△1,092
その他	26	△69
投資活動によるキャッシュ・フロー	△852	△2,141
財務活動によるキャッシュ・フロー		
リース債務の返済による支出	△46	△47
配当金の支払額	△1,039	△1,477
その他	△0	△4
財務活動によるキャッシュ・フロー	△1,086	△1,528
現金及び現金同等物に係る換算差額	12	△49
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	1,351	2,234
現金及び現金同等物の期首残高	16,630	20,177
現金及び現金同等物の四半期末残高	17,981	22,411

(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第3四半期連結累計期間(自 2018年4月1日 至 2018年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位: 百万円)

	報告セグメント		合計	調整額 (注) 1	四半期連結損益 計算書計上額 (注) 2
	I Tサービス	ネットビジネス			
売上高					
外部顧客への売上高	15,575	19,933	35,509	—	35,509
セグメント間の内部売上高 又は振替高	72	4	76	△76	—
計	15,648	19,937	35,585	△76	35,509
セグメント利益	534	3,262	3,796	7	3,804

(注) 1. セグメント利益の調整額7百万円は、セグメント間取引消去及び全社費用です。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っています。

II 当第3四半期連結累計期間(自 2019年4月1日 至 2019年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位: 百万円)

	報告セグメント		合計	調整額 (注) 1	四半期連結損益 計算書計上額 (注) 2
	I Tサービス	ネットビジネス			
売上高					
外部顧客への売上高	17,034	24,165	41,200	—	41,200
セグメント間の内部売上高 又は振替高	74	0	74	△74	—
計	17,108	24,165	41,274	△74	41,200
セグメント利益	1,887	3,933	5,820	7	5,827

(注) 1. セグメント利益の調整額7百万円は、セグメント間取引消去及び全社費用です。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っています。